



1

広野小学校で放射線の授業が行われました

6月27日（火）、28日（水）の2日間広野小学校で放射線に関する授業が行われ、私たち相談室や町職員が広野町の取り組みについてお話ししてきました！



1・2年生

放射線についての紙芝居を2種類見てもらいました。内容は「なにがおきたのほうしゃせん」と「ふくしまのたべものどうなっているの」です。子供たちからは「放射線はどうやって体の中に入るんですか」「広野で一番放射線が高い食べ物は何か」などの質問が出ました。



3年生

専門家の話を聞いた後、実際に霧箱実験を見てもらいました。霧箱実験とは、普段は目に見えない放射線を見ることができる実験で、子供たちは興味津々で、真剣に見ていました。そのあとどんな風に放射線が見えたか、実際に書いてもらいました。



4年生

ビーズ模型による除染の方法や効果を疑似体験してもらいました。疑似体験することで実際の除染のやり方を知ることができたようです。専門家の話や町の担当職員から除染の話を聞いてより理解ができたようです。



5 年 生

ラディという空間線量を測定する機械を使って実際に子供たちが学校の校庭を測りました。そのあと教室へ戻り自分たちが測定した線量を線量毎の色別にカラーシールを使って地図上に貼っていきました。



6 年 生

福島産の桃の風評被害について、子供たちが3グループに分かれディスカッションをしました。どうすれば福島産の桃の安全さを発信できるか、子供たちからは「実際検査している所をみてもらう」「テレビや新聞等で安全をアピールする」のような意見が出ました。みんなの率直な意見を聞くことができとても嬉しかったです。



元気いっぱいの子どもたちが真剣に話を聞いたり、考えたりする姿を見て、とても感心しました。

私たちは相談室の活動を通して町のみなさんと話す機会がたくさんあります。そこから感じることは、広野町では放射線への不安は小さくなってきているということです。

それでも、放射線についての「知識」を身に付けておくことは大変重要なことです。広野町の将来を背負って立つ子どもたちにはこれからも放射線について勉強して行って欲しいと思います。私たちはそのお手伝いをしていきます。



食品のモニタリング結果総括表 (平成 29 年 6 月実施分)



【基準値】：一般食品 100Bq/kg 牛乳・乳幼児製品 50Bq/kg 飲料水 10Bq/kg

規制のない食品	検査数	基準値未満	基準値以上	備考 (基準値以上の品目)
野菜	42	42	0	
根菜・芋類	24	24	0	
山菜・きのこ	6	5	1	たけのこ
果物	0	—	—	
穀類	0	—	—	
種実類	25	25	0	
魚介類	0	—	—	
加工食品	0	—	—	
飲料水	2	2	0	
その他(肉類など)	1	1	0	
総検査数	100	99	1	

食品モニタリング結果の詳細については、食品分析検査センター(公民館内)と放射線相談室に置くほか、広野町ホームページに掲載しますのでご利用下さい。

右の QR コードを読み取ったあと、東日本大震災→放射線量・除染関連→放射線量情報の項目の中の「食品モニタリング」をクリックしていただくと見ることができます。



場 所	放射能簡易分析検査センター(公民館1階)
曜 日	月曜日から金曜日(祝日を除く)
受付時間	午前8時30分～午後4時30まで

広野町各地区の放射線量



平成 29 年 7 月 14 日 8 時 00 分現在(天候：晴れ)の町内各地区代表的な個所のモニタリングポストの数値をお知らせします。

測定箇所	放射線量率(μSv/h)	測定箇所	放射線量率(μSv/h)
広野小・中学校	0.09	広野町役場	0.11
広洋台地区集会所	0.12	高速バス利用者駐車場	0.16
二ツ沼公園 ^{注2}	0.10	上田郷橋付近 ^{注1}	0.21
長畑地区集会所	0.12	北沢複合交差点	0.16
小滝平浄水場 ^{注2}	0.09	県道広野～小高線沿	0.17
ふたば未来学園高等学校	0.07	仮置場	0.11

注1 平成 29 年 3 月設置

注2 二ツ沼公園、小滝平浄水場のモニタリングポストは現地では nGy/h (ナノグレイ毎時) で表示されていますが、μSv/h に換算して掲載しています。

放射線健康対策委員からの 放射線に関するコラム

放射線と放射能—その偶然と必然（1）

東日本国際大学 客員教授

地域共存学研究所所長 理学博士 北見 正伸先生

放射線や放射能の発見は、今から約 120 年前のかなり最近の出来事なのです。日本では明治 30 年代。江戸幕府最後の将軍徳川慶喜、西郷隆盛に江戸城無血開城を受け入れさせた勝海舟、日本の初代内閣総理大臣伊藤博文など、幕末から明治にかけての偉人たちもなお存命の時代でした。

最初の放射線「x 線」の発見：

1895 年、レントゲン（ドイツ）は放電管（内部を真空にしたガラス管に高電圧をかけて放電させる装置）から、物質を透過して蛍光スクリーンを光らせる目に見えないものが発生していることを発見しましたが、その正体がわからなかったので未知を意味する「x 線」と命名しました。この非常に透過力の強い「x 線」を【偶然】にも発見した事が、人類が放射線の存在に気付いた最初の出来事でした。

放射能の発見：

1896 年、ベクレル（フランス）は太陽光線をウラン塩（ウラン鉱石）にあてて燐光を発生させる蛍光物質の研究をしている中で、【偶然】にも曇りの日が続いたために試料に光をあてる事ができず、黒紙に包んだ写真乾板（光に反応するガラス板）をウラン塩と一緒にしまっておいたところ、数日後に取り出した写真乾板が前よりも黒く感光していることに気づきました。太陽光が無くても（＝他からエネルギーを与えなくても）、ウラン塩自身が自然に写真乾板を黒くするもの＝放射線（x 線以外）を発生する能力、つまり「放射能」を持つことを発見しました。

これらの偶然による「放射線」と「放射能」の発見に続いて、1898 年、キュリー夫妻（ポーランド・フランス）が新しい放射性元素としてウランよりも強力な放射線を放出するラジウムを発見、同年にはラザフォード（イギリス）がウランから透過能力が異なる 2 種類の放射線（ α 線と β 線）が出ていることを発見、またヴィラールが x 線に似た透過性の強い別の放射線（ γ 線）を発見し、その後、 α 線はヘリウム原子核、 β 線は電子、 γ 線は光の仲間（電磁波）であることがわかりました。

次のページに続く

これらの【偶然】がもたらした「放射線」と「放射能」の発見は、原子から発せられる重要なメッセージとしての役目を担うことになり、その後の研究の発展によって、原子の構造は原子核の周りを電子が回っているというラザフォードによる原子構造の提唱を経て、相対性理論とともに、それまでの物理学の常識を覆す量子論という物理学の革命的な新しい理論をもたらす契機になりました。

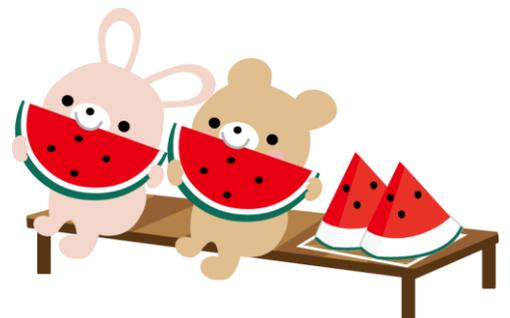
次回は、核分裂の発見などについてとともに、今回の原発事故は【偶然】か【必然】か？について述べることにします。



お知らせ

「放射線相談室だより」を個別で欲しい方は、健康福祉課窓口、食品分析センター（公民館内）および役場内図書室までお越しのうえ、お持ちください。

また、広野町ホームページ内に過去の発行分（平成27年10月分）から最新号まで掲載しておりますので、ご覧ください。



発行者 広野町放射線相談室 080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係 0240-27-2113

最近の出来事



発行者 広野町放射線相談室 080-9252-4773

広野町健康福祉課放射線健康相談係 0240-27-2113